

第1学年英語科学習指導案

日 時 平成29年9月28日(木)
学 級 花巻市立東和中学校 1年2組
(男子19名 女子15名 計34名)
授業者 教諭 佐々木 俊子

1 単元名 PROGRAM8 Origami (SUNSHINE ENGLISH COURSE 1)

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、日本独自の文化である折り紙について扱っている。大介の折り紙作品の紹介やウッド先生の学生時代のエピソードなど生徒の興味をひくような内容である。折り紙にあまり興味のない生徒であっても、日本の文化が海外に伝わっていることに驚き、次第に興味を持って読み進めると思うので、生徒たちの反応を大事にしながら学習を進めたい。

文法事項では、能力を表現する助動詞 **can** と「どのように～するのか」をたずねる **How～?** の指導をする。助動詞は初出であるので、その用法やその後には動詞の原形がくることをしっかりと指導したい。また、**How～?** の指導では、学校に来る交通手段や名前の綴り方をたずねる場合について繰り返し練習させ、定着を図りたい。

(2) 生徒観

入学直後に実施したアンケートの結果は次の通りである。

質 問	
1 小学校での外国語活動は楽しかったですか。	楽しかった97%
2 あなたが今できることをすべて選んでください。	
A 身の回りのものを英語で言える。	31人
B 英語で数を言える。	33人
C 自分の好きなものなどを英語で言える。	17人
D 「嬉しい」「空腹だ」「元気です」を英語で言える。	21人
E 月の名前を英語で言える。	13人
F 天気を英語で言える。	4人
G アルファベットを書くことができる。	22人
3 英語を学習してできるようになりたいことは何ですか。	27人が記入
・話せるようになりたい・英語の歌を聞きたい。 ・英語の本を読了したい。	
・外国に住みたい。・通訳になりたい。・留学したい。・英語で文章を書きたい。	

アンケート結果より、1年2組の生徒たちは英語学習への興味・関心が高く、身の回りのものや数を英語で言うことができ、目標を持って学習に取り組んでいる生徒が多いと言える。

学習に対する取り組みについては、家庭学習にしっかりと取り組む生徒が多く英語学習への意欲の高さが窺える。全体的に積極的な発言は多くないが、よく考えて挙手・発言する生徒たちがいて他の生徒たちにいい刺激を与えている。

本単元では、自分ができることについて英語で表現したり、また相手にできるかどうかや、どうやって学校にくるのか、名前をどのように綴るのかを質問したり答えたりと、多様な活動を仕組んで興味・関心を持って取り組ませたい。

(3) 指導観

助動詞 can と How～?の定着のために、can を用いた文を使っての対話や交通手段を尋ねたり答えたりする活動をペアで行わせたい。そして、長文や対話文の読み取りを通し、can、How ～?の用法についての理解を深めさせ、それらを使っての自己表現ができるようにさせたい。

3 単元指導計画

(1) 単元の目標

- ① ペアやグループ活動で、自ら積極的に聞いたり答えたりしようとする。
- ② 助動詞 can を用いた文や How ～ ?の文を使って会話したり書いたりできる。
- ③ 話されたり書かれたりしている英語の内容を理解することができる。

(2) 単元の評価基準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
英語を聴いたり読んだり話したり書いたりする活動に集中して取り組む。	助動詞 can を用いた文やどのようにするのかをたずねる How～?の文を使って会話したり書いたりできる。	話されたり書かれたりしている英語の内容を理解することができる。	

(3) 指導及び評価計画

4 本時の指導

時間	学習内容	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
1	助動詞 can の意味・用法理解、対話練習	ペア活動に集中して取り組む。	自分や友だちのできることを言うことができる。		
2 本時	大介のスピーチ理解、自己表現		自分のできることを英語で書くことができる。	スピーチの内容を理解し、Q1・2に答えることができる。	
3	can を用いての質問の仕方、答え方理解、対話練習	ペア活動に集中して取り組む。	相手にたずねたり答えたりすることができる。		
4	対話文の内容理解、自己表現		相手にたずねる文を書くことができる。	会話文の内容を理解し、Q1・2に答えることができる。	
5	どのようにするのかのたずね方、答え方理解、対話練習	ペアやグループでの対話練習に集中して取り組む。	How ～?を使ってたずねることができる。		
6	対話文の内容理解、自己表現		相手に登校手段をたずねる文、その答えの文を書くことができる。	会話文の内容を理解し、Q1・2に答えることができる。	

(1) 本時の目標

- ① **can** を用いて自分のできることを英語で書くことができる。
- ② 大介のスピーチの内容を理解することができる。

(2) 本時の指導の構想

本時では、大介のスピーチ原稿を読み取ったり音読したりする活動をする中で、**can** の使い方に意識を向けさせその用法への理解を深めさせたい。**can** の後には動詞の原形がくることや、できることを表すのに使うことを確認し、「大介くんのように自分のできることを英語で書く」活動をさせたい。

(3) 本時の評価基準

観 点	A：十分満足できる	B：概ね満足できる	C：努力を要する生徒への手立て
外国語表現の能力	自分のできることを can を用いて3文以上書くことができる。	自分のできることを can を用いて書くことができる。	「できること」と使う動詞を確認し、表現につなげる。
外国語理解の能力	スピーチの内容を理解し、Q 1・2に文の形で答えることができる。	スピーチの内容を理解し、Q 1・2に答えることができる。	何を聞かれているのかを確認し、答えが書かれている箇所を探させる。

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 考 自分の考えを持つ場面 学 学び合う場面 書 意図的な書く場面 ◇支援 ◆評価
見通す 5分	1 Greetings Warm up 2 既習事項の確認 3 学習課題の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・曜日、月日、天気、時刻の確認 ・can の意味、用法の確認 ・新出語句の確認 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 学習課題 大介くんのように自分のできることを英語で書こう </div>			
解決する 35分	4 Oral Introduction 5 本文の Listening 6 音読練習 7 読み取りを深める 8 自己表現をする	<ul style="list-style-type: none"> ・場面や大介についての英語での紹介を聞く。 ・ Repeat ・ Read Trough ・ 1文ずつ (教師→生徒) ・ ペア練習 (生徒→生徒) ・ 日本語での質問に答える。 ・ TorF テスト ・ Q 1, Q 2 に答える。 ・ 大介ができることを確認する。 ・ 自分のできることを英語で書く。 	<p>◇難しそうな部分は繰り返す。 ◆英文を聞いて理解できたか。(活動の観察)</p> <p>学ペアでチェックし合う。 ◇読めない語について指導する。</p> <p>考本文中から答えをさがす。 学ペアで答えを確認し合う。 考英語を聞いて判断する。</p> <p>考書質問の答えを考え、書く。 ◆内容理解できたか。(挙手・発言の確認)</p> <p>書can を用いて表現させる。 ◇個別に指導する。 ◆自己表現できたか。(個別点検及びノート点検)</p>
振り返る 10分	9 学習のまとめ 10 次時の予告 11 Greetings	<div data-bbox="387 1742 1273 1861" style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 学習のまとめ できることを表現するには can を使う 例) I can sing many songs. </div>	<p>書ノートに書かせる。</p>